

薫 風

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.23 令和7年1月30日

令和6年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子どもの育成」
『楽しく、面白く、やってみたいをやってみよう!』

第60回冬季交歓会



1月23日、24日の2日間で、群馬県片品小学校との第60回冬季交歓会が行われました。利根川の上流に位置する片品小学校と、その下流にある明神小学校が、60年間という長きにわたって心の交流を継続してきたこと、そしてコロナ禍を乗り越えて、新たな形を模索しながら、現在も交流が続けられていることは、本当に素晴らしいことだと思います。片品周辺のドライブインやお土産物屋さんに立ち寄った際に、私たちが千葉県銚子市から来たと伝え、必ず交歓会の話題になります。「自分は、第1回の交歓会に参加した

んですよ。」や「自分と子供と孫の3代で交歓会に参加したんですよ。」など、今でも楽しそうにお話をしてくださる方々がいます。その日、初めて出会った方と「交歓会」「明神」というキーワードで心を通わせることができるのは、とても素敵なことだと思います。

この交歓会という行事が、たくさんの方々の絆によって支えられ、温かい想いで繋がっているということを改めて実感しています。



1日目に子供たちは、一面の銀世界で、そり遊びや雪合戦などをしながら、片品小の児童と交流を深めました。今年は、2日目に片品小学校で「炭クラフト」と「クロスカントリー」を行いました。「炭クラフト」は、片品村でつくられた炭の台に、様々な装飾をしていきます。それらの装飾品は、片品小の保護者の方や地域の方が子供たちのために用意をしてくださったものです。1㎡より小さい「水芭蕉の花」や「どんぐりで作ったトトロ」など、子供たちを想う気持ちに溢れたものばかりです。自分の感じたことやイメージを装飾しながら、素晴らしい作品を作り上げました。

また、今年から行った「クロスカントリー」では、片品小の児童と明神小の児童がペアとなり、片品小の児童がスキー板の履き方から滑り方まで丁寧に教えてくれました。お互いに声をかけながらクロスカントリーに挑戦している姿は、とても感動的でした。雪遊びやレク大会など、大勢で交流を深めることも素敵ですが、縁あってペアになった子供同士が、互いに交流を深めるという光景は、まさに、この交歓会の醍醐味ではないかと思います。

最後の「お別れ式」では、明神小と片品小の児童で「交歓分宿の歌」を合唱し、60回の記念として、とても素敵な「リース」を頂きました。子供たちには、この「リース」とともに、交歓会60年間の歴史を大切に受け継いでいってほしいと思います。

保護者の皆様、親師会役員の皆様、地域の皆様には、交歓会へのご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

